

琵琶湖・森林・防災対策特別委員会 県内行政調査

1 調査日 令和8年7月15日（水）

2 調査の概要

（1）東近江市議会（東近江市山上町）

東近江市では、鈴鹿山脈の源流部から琵琶湖に至るまでが愛知川でつながり、生物多様性に配慮した森づくりや農業水路における自然再生活動等、地域と協働で森、里、川、湖のつながりを意識したまちづくりに取り組んでいる。

本委員会では、「森・里・川・琵琶湖をつなぐ環境保全対策の推進」を重点調査項目の一つとし、環境と経済、社会活動をつなぐ健全な循環の構築にかかる取組について調査することとしている。

ついては、今後の委員会活動の参考とするため、同市を訪問し、愛知川の流域マネジメントに関わる企業・団体との意見交換を通じて、持続可能な地域資源の管理について調査を行った。



（2）彦根地方气象台（彦根市城町）

彦根地方气象台は、明治26年に滋賀県立彦根測候所として設置されて以降、気象観測を続けられるとともに、県民の命を守るための防災気象情報を発表されており、本年5月29日からは気象災害の情報が避難行動に応じた5段階の警報レベルに整理された、新たな防災気象情報の運用も開始されたところである。

近年、全国的に異常気象による土砂災害や風水害、森林火災等のリスク増加が懸念されており、本委員会の重点調査項目である「県民と共に進める防災対策の推進」に当たっては、気候変動による影響を把握し、今後発生が予測される災害に備えるとともに、県民への適切な情報提供に努めることが重要となる。

ついては、今後の委員会活動の参考とするため、気候変動に伴う滋賀県への影響と課題について、新たな防災気象情報の運用状況も含めて調査を行った。

